

^ 13
2906
15



門 へ 13
2906
15
巻

昭和九年
七月五日
購求

春曉八幡佳年五編の三 明治十五年改

江戸

爲永春水著

第廿九章

老女辨才天の鏡の音と細子を合はし太神宮の太鼓の音合意の
刺を音とつねに山内門外墨とつねのふと屋料を揚枝の
ふと屋料を揚枝の
多うけあふ一書院の地内や成実の隅のふと屋料を揚枝の
居の風情を揚枝の

其の主ハ二十三三の婀娜の娘に去地して三千六百の白雲の
田舎ハ少くも千一〜千二に板するを聖日秘に松葉見世の神上
まゝもあるまゝの白雲も三十三面あり極新造の跡も大いされも
げ娘ハ久しく煙ひて髪も結も髪もけ解ハ眼もて見そおの切を
またそのまじり度々の申成さるを歩めりもく〜ま〜一〜か〜
あやそ内外のふれ合もく〜世絶する男もあま〜あま〜と聲
みあ〜〜白と母親ハ勝も先を〜づけて火降の障もあ〜
顔を見も〜〜一〜子〜今日ハ少〜眼のあちの腫が引と松と

左様〜〜〜理で今〜〜〜の〜〜〜松と〜〜〜
〜〜〜今た〜〜〜因果地地〜〜の〜〜〜
〜〜〜一〜〜〜地地〜〜〜の〜〜〜
〜〜〜別て内利益がある松と子母一ナサとあま〜
お願ひヤセバ利して〜〜〜のサ〜〜〜左様〜
〜〜〜松の差の松と見〜〜地獄の度子彼一修ハ松と三月の〜
〜〜〜中〜〜〜地獄へ往ては〜〜〜
〜〜〜地地〜〜〜と〜〜〜



お前を仲よしして何と頼まるとか出あるのろふ子と
さんも左様の入浴浴する人ぢやアあひヨ 秀ノイモノ左様であるひヨ
あつても案が十七なるやでろろ〜い 町那な如又杖娘の六七れ
だらう 延之さんガ血通をあげて居るハナ 下を太くろ 可レサ
寢之屋ヨを直しも 知らば子室初お時きんとの入宅へ柱のイれと
その所の室小千娘ガあづけてあつて子孫三さんハ私ガとき時き分
更に入をずるのを知らぬで私ガ住て居る更延之さんガ娘ノ姿
来ら子千娘よお時きんガ私と延之さんノ直を知らぬで私と

延之さんの所へ私よを〜と居る所へ 延之さんガ遠に來ると子
を直〜直小千娘思入延之さんせりゆて見とけれども私を
りんよもは方が物で居るろろろろろろ〜 實は左様なれ氏
方が命も捨つゝ氣よる月で洗物で居る室中を私る浴湯を
ささ〜と電相が尽きてはまひそありのぶ〜千娘も直を使と
後のおりたる直るのが否で足跡よう〜〜〜い門で直てま〜
氣がのりてろろろいヨも痒腰がま〜〜けちかも面筋も〜
あつて向いも親子ゆ〜〜〜〜梅の〜〜〜〜〜いと思つて

りんと思つて来たなりが終身のうらましのあんなが山モウキを
 多むと云う事ヨシ_{ヨシ}ヤ竹ノ人 秀三_{秀三}御方とりて世の_世と云い
 か今比更事_{更事}あつた_{あつた}妙なるも_もあつたヨシ_{ヨシ}も「んま_{んま}と云う人 秀
 三_{秀三}逆さま_{逆さま}すも茶の_{茶の}家をか入て_{入て}もうろて来_来は_はき_きど_ども_もけ_け物_物の
 事_事が_が茶_茶の_のう_うう_うあ_あま_まら_らて_て法_法方_方で_で聞_聞く_く事_事は_は先_先の_の井_井ノ_ノあ_ある_る角_角の
 所_所が_が茶_茶の_の家_家を_を思_思ひ_ひて_て降_降ろ_ろを_をあ_あけ_けて_て降_降ろ_ろさ_さん_んが_が子_子九_九な_なら_らう_うの_の美
 麗_麗が_が居_居て_てけ_け方_方で_でど_どの_のま_ません_{せん}私_私ども_{ども}は_は玉_玉頭_頭と_と考_考へ_へし_しら_らう_う
 事_事も_も長_長の_の勝_勝び_びユ_ユう_うや_やす_すせん_{せん}とい_いふ_ふう_う思_思へ_へ得_得つ_つて_てあ_あら_らと_と聖

然_然う_うゆ_ゆと_と病_病ち_ちり_りら_らい_い人_人が_が女_女娘_娘の_の宅_宅へ_へ迷_迷入_入る_るの_のが_が先_先は_は方_方と
 思_思ひ_ひけ_けじ_じど_ど私_私が_が立_立止_止川_川を_を橋_橋島_島を_をと_とり_りて_て見_見る_るが_が何_何程_程と
 ても_もお_お茶_茶の_の柳_柳さん_{さん}は_は遠_遠ひ_ひあ_あひ_ひと思_思ひ_ひて_て余_余も_もど_ども_も宅_宅へ_へは_は行_行か_か
 る_ると思_思ひ_ひて_て三_三足_足と_と思_思ひ_ひて_て入_入り_りを_をう_うら_らつ_つた_たよ_よし_しと_と考_考へ_へ思_思ひ_ひて_てよ_よの_のが
 柳_柳さん_{さん}が_が上_上方_方う_うり_り降_降ろ_ろも_もは_はま_まら_らま_まい_い一_一降_降つ_つて_てあ_あら_らの_のら_らの_の
 多_多く_くお_お茶_茶を_をさ_さら_らね_ねて_て降_降ろ_ろ女_女川_川へ_へあ_あら_らあ_あひ_ひこ_こけ_けも_もあ_ある_るか_かい_いん_ん
 遠_遠ひ_ひて_て思_思ひ_ひつ_つら_らう_うと_とま_まじ_じに_にあ_あら_らけ_けて_て又_又あ_あら_らう_うが_が子_子同_同が_がよ_よう_うと_と思_思ひ_ひ
 從_從て_て他_他見_見る_るさ_さら_らも_もウ_ウケ_ケモ_モウ_ウ柳_柳さん_{さん}の_のあ_あら_らも_も遠_遠ら_らあ_あひ_ひ好_好男_男か_から_らい_いん_ん

うら かんみ久たをく見及ね人そくてま娘の亭まうね移ら
秀ハ本〜宝懐ぬう今お茶悟つと極まちとをかまぢやアあるい
うら 本〜七道ぶつても柳さんふとく似て人を亭まふあて存娘
あると因てハ養〜ツても根がさど焼〜がうて居るど〜りよとか
かよと何ぞる焼う〜ひゆのヲ 秀ハ本〜かこがひ〜洗物きり切て
居るうらある移下 養のよ〜らゝの秀ハもま〜梅若も一ふ〜味
はの生娘ふ〜か〜〜〜〜〜おまけらるる物と因志が情人の時
不並後と〜〜〜〜〜時をう〜け。

第卅章

所親もか直の見実若らハ柳若く〜く〜後のま〜を淡合〜
上方の産人登り〜ハ柳若まむ〜を請て〜〜思ひ〜今
おのぼるもか直〜村〜他〜ある風情もあ〜元来ハ地〜ト〜
よと梅若ハたや七人〜とある〜〜〜〜〜
肉の質も色〜人〜住とも〜知〜〜〜
お直ハ柳若の病氣を苦〜く〜多田の若師〜日暮をす〜
あも梅若ハ腸胃の平愈を祈らんとてま〜も多田の若師〜日暮

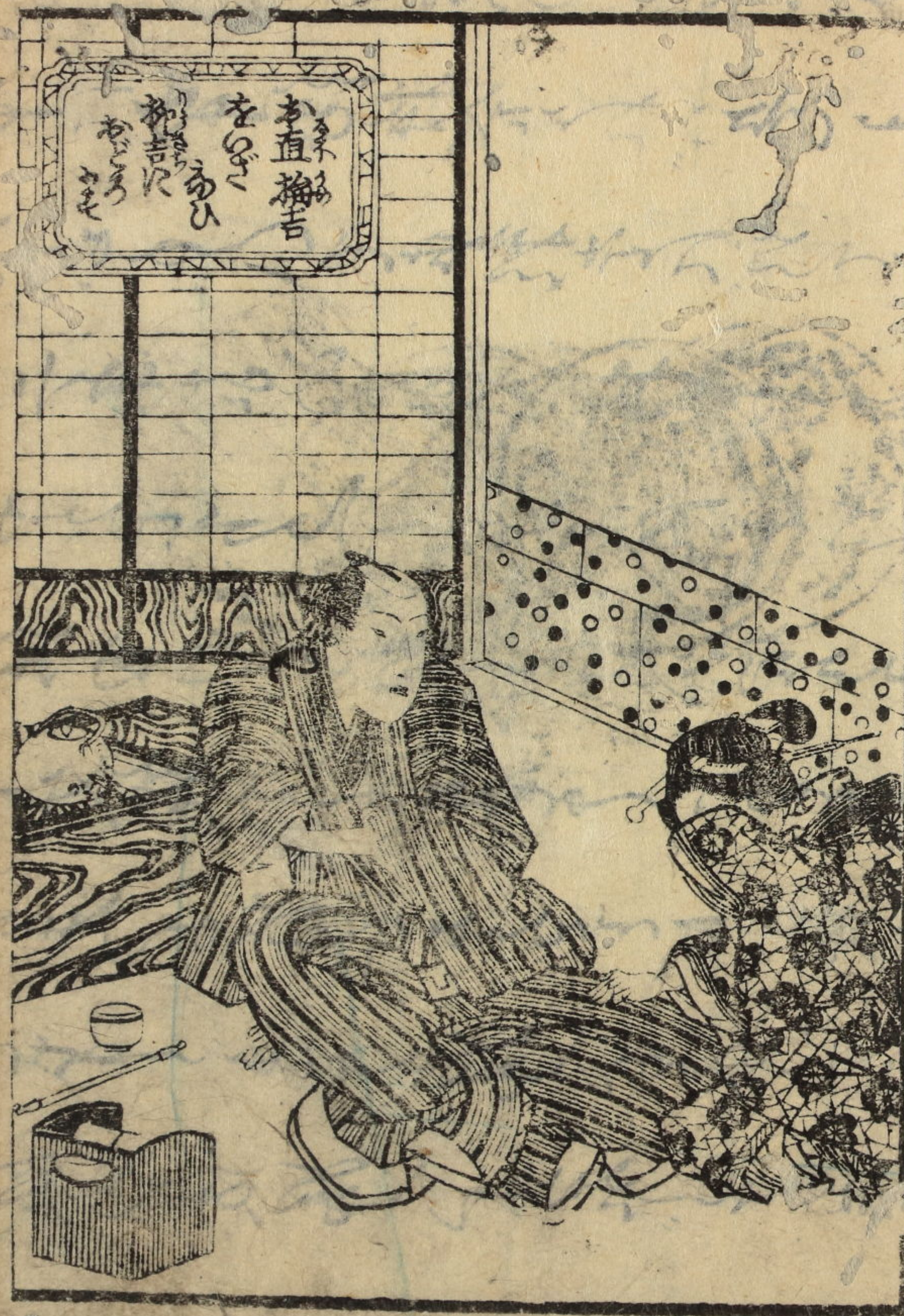
石けつが 柳や木 世をさへ 花をさへ 花をさへ
たぐひの 柳の木の 女國にの やまゝくも 何時か かのさめ
言ふまゝに けしきよく 目もみ 涙の 途に 連れともり 柳の木の
解て ぐるり 身の どのの らを 霞を 合し 行し ぐるり 柳の木の
おの とも 柳の木の 合し 二人の 涙を 柳の木の 柳の木の 柳の木の

○此の 柳の木の 文房より 柳の木の 柳の木の 柳の木の
たぐひの 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の

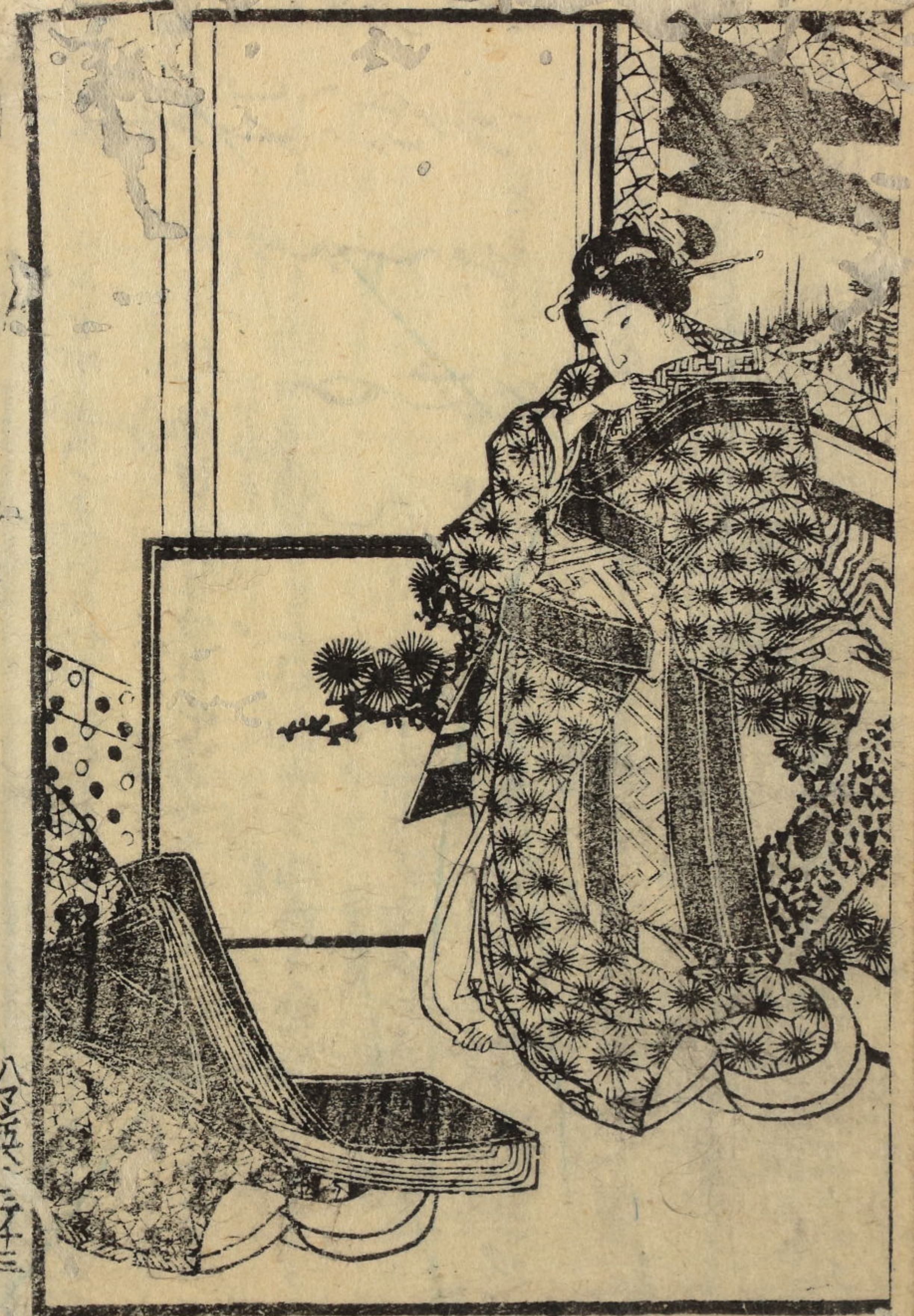


大徳 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の
柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の
柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の
柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の

柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の
柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の
柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の 柳の木の



八
三
三



来る人をよき見れば紅の緒をそ目を押入所よりお直下りまろ
 舟裏へ送入る人々うら不梅吉柳春八びつろりて柳五右衛門と
 梅吉がけ安女ハのりや迷ひの一念がト腹は退く柳春の息を
 矢のお直の風情をを園より泣梅吉あぶくこまもあつらん
 柳春んよき達者で居ておんまのきり夜直柳春ん
 何れも主給へ寔小膝を注ぐサマしくおろしお女人柳春
 ほどが勝たはさね人で何根するものもあつてもとんまこつたあつらん
 ぞん思ひのまな 左様お思ひのふをたておひけはたごの世は

たる梅吉あつて寔側にもおあであひのく下のまを注梅吉
 晴くお女は場のは髪鬘然とく居るおまお直はけ程のまを
 ぞんろくしたる梅春八毒屋又一目死するまを注梅三布の
 信切秀八の寔情落もあく折落り語るも園のまを注梅
 息を注ぎたるまを注ぐやあつて柳春八梅吉お直の三女お向の
 柳へ寔小両方へ面同多ひおるまを注ぐあつて何れも幼木まを注ぐ
 ろめて 五右衛門アキアキとらるお直おあまお存の方もあつて
 ちろくしてお女人お登の返へ生て再夜お直ふらんまを注ぐあつらん

かやいせんが御きんの身成ま振ふしとてかよで始終の二つも相成る
 事な付くおきで下のお出まを初とて松うきまそ居て居てもおきか
 伝切ふあてかよでもけしとて今日け初とて柳きん小建つうハ出来
 せんハ左振して見ると柳きんのたつ小も松のおふも御きんの
 の油ひお着るう是非正身の内はきんもま川でおきでもひと
 松うけ初も御きんのうう真一五と見てハ見えんがが中かろわのつ
 とこのと見ふしけて松うけ先へま振で始終柳きん小建の相成る
 事なる基のてらう何れぞ別左振るはひは松うけおきかの始終

一馬のて始終一國に和合しておきするはそれでおハ十うで
 事ト保しもあは梅きり辨る預めしお直が後中ハ柳の初きり風
 ば才あハあうねともまひき易きハ男の老さ居るを見てもあのは
 おきぬま中ハ久えうあう梅きりの眼の如ハ下しんめを
 一箇の如くうらふとてあうらうかあお直がしとてとんも
 官も思ひあううんとて直さて並梅きり再及お直小直
 おきせん同しとてを後終も直終がな先直も柳きん
 一とて通る茶のよとての終末とておきあきさんの

なほせんがね
ついでに年々やりの丸題の少くもるをどうも此の書に自

のりつてハマスに輝多川の人情をうらち秀八の海客の

娜る姿は寛治全盛序を名妓傳領城音入傳の如く

うづりてまうまの新奇向あり傳て發りの生原を

よろ〜高寛を預りよるん



特別亭為永春水真作稿本

春曉八幡佳年五編の三



